

## なぞのイモムシ

平尾小・3 白井 梓

七月二十五日火曜日、お母さんが畑でイモムシを見つけてきました。そのイモムシは、赤く実ったミニトマトに大あなを開けて、頭をつつこんで食べていました。体長十五ミリくらいで、体の色はうすいオレンジ色でした。がらはなく、まばらに毛が生えていました。きょうきやく三つ、ふくきやく四つ、びきやくがあり、び角はありませんでした。それらのとくちようから、イモムシの図かんなどで調べてみましたが、にたような色や形のイモムシがいくつあつて、しゆるいをとくいていすることはできませんでした。でも、ヤガ科か、メイガのたぐいではないかと思いましたが、せつかくなので、そのまま育ててみることにしました。

まず、小ぶりなしいくケースに、イネ科のざつ草を十センチくらいにきざんで入れ、ミニトマトの葉や実をいくつか入れて、その中でイモムシを飼いました。ときどきかんさつしましたが、ずっとミニトマトの実にくつついていて葉は食べませんでした。ふんは、くすんだオレンジとモスグリーンがまざつたような色でした。イモムシは日に日に大きくなっていきました。

七月二十八日金曜日、イモムシの体長は三十ミリくらいになりました。しいくケースの中をうろろしていたので、ミニトマトの実においたところ、しばらくじつとして、その後実を食べ始めました。

七月二十九日土曜日、イモムシは、またしいくケースの中をうろ

ろろしていました。しばらく歩き回ってから、きざんだざつ草の下に入りこんで、出てこなくなりました。

数時間後、しいくケースの下の角に、ざつくりと糸をはつて蛹室を作っていました。歩き回っていたのはワンダリングだとわかりました。

七月三十日日曜日には、イモムシの体がちぢみ、前蛹じようたいになりました。

八月一日火曜日には、蛹らしい形になっていました。その色は、イモムシの時の色に近い、うすいオレンジ色でした。

八月二日水曜日、蛹の色が赤茶色になっていました。そつとついでみると蛹はくねくね動いて転がりました。その後数日、蛹は色も形もかわつたようには見えませんでした。

八月十日木曜日の午前中、しいくケースの中にガがとまつていました。しいくケースの中には、蛹のぬけがらがのこつていたので、羽化したとわかりました。ガのすがたはたて長の三角形で、目はモスグリーンで、羽はうすい灰緑色で、茶色のもようがありました。きれいなすがたでした。

あらためて図かんで調べたのですが、同じ色のガが見つかりませんでした。そのため、今度はガの形に注目して、「くらべてわかる蛾」という図かんで調べてみました。にたような形やがらのガをいくつかえらび出して食草やよう虫のすがたをかくにんして、オオタバコガが一番近いと思いました。でも図かんの写真のオオタバコガの色は羽は茶色で目は黒だつたのでインターネットで調べてみました。グーグルで「オオタバコガ」というキーワードでけんさくしたところ、目も羽の色もそつくりの写真を見つけることができました。その写真は、石川県病害虫防除室の発行した「防除室だより vol.12」

びようがいちゆうぼうじよつ

(二〇一六年十二月二六日) にのっていました。  
なぞのイモムシの正体がわかったので、ガはにがしてあげました。  
なぞがとけてよかったです。